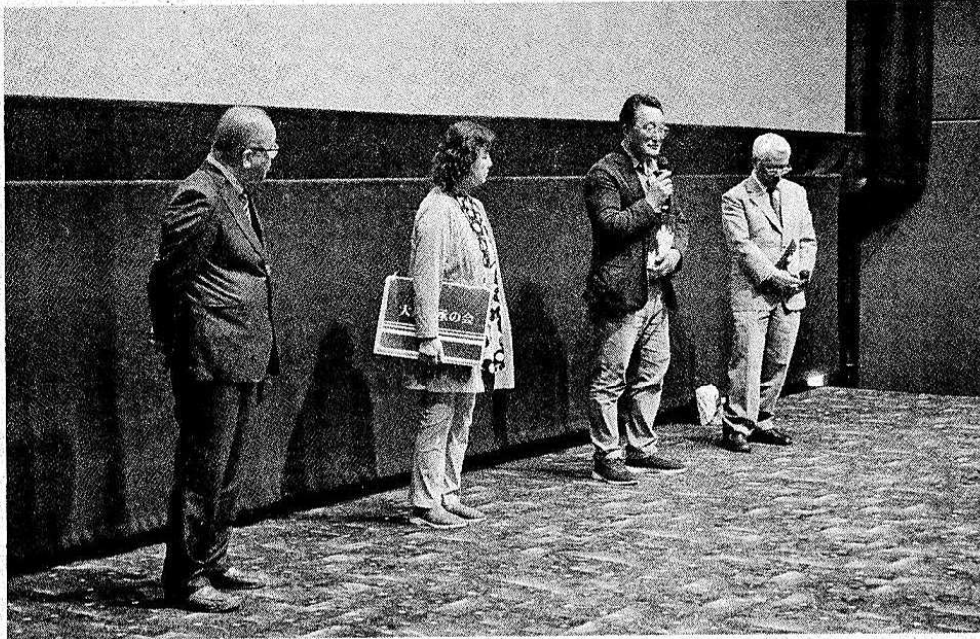


誰も同じ思いないように

大川小・裁判記録映画

監督、遺族ら舞台あいさつ



イオンモール石巻Ⅱ石巻市茜平Ⅱ内の映画館で上映中の『生きる』大川小学校 津波裁判を闘った人たちの舞台あいさつが13日、同館であった。旧大川小で津波被害に遭った児童の遺族が市と県を訴えた裁判記録のドキュメンタリー。この日は監督、原告遺族含む4人が登壇した。

旧大川小では、東日本大震災の津波で当時の全校児童の7割に相当する74人（行方不明4人）と10人の教職員が犠牲となった。遺族は「なぜわが子が学校で最期を迎えたのか」と切なる思いを胸に

市、県に対して訴訟を起こした。映画には、5年にも及ぶ裁判の中で遺族らの葛藤や思いが収められている。舞台あいさつには原告遺族の紫桃隆洋さん（58）、大川伝承の会で語り部を行う三條すみゑさん（64）、裁判の代理人を務めた吉岡和弘さん（75）、映

画監督の寺田和弘さん（51）が登壇した。当時、小学5年生だった娘をしくした紫藤さんは「大川小で起きた現実を受け止め、これからの生活の中で命の大切さを考えて行動してほしい」、津波で当時18歳だった息子を亡くした三條さんは「石巻市内の子どもたちにこそ知ってほしい。このようなことを起こさないために私はいくつか語り部として語り続ける」とそれぞれ切実な思いを込めた。吉岡さんは「裁判は遺族だけでなく、現場にいた先生の気持ちを

少しでも反映した判決になったと思う。さまざまな人の思いが込められた映画だ」、寺田監督は「それぞれが複雑な思いを抱えて裁判に向かった。『誰にも同じ思いをしてほしくない』と闘った人々の姿を見てほしい」と話していた。映画は124分。上映終了日は未定となっている。

【泉野帆薫】

2023年5月15日(月)
石巻日日新聞

紫桃さん（右2番目）ら4人が登壇した